

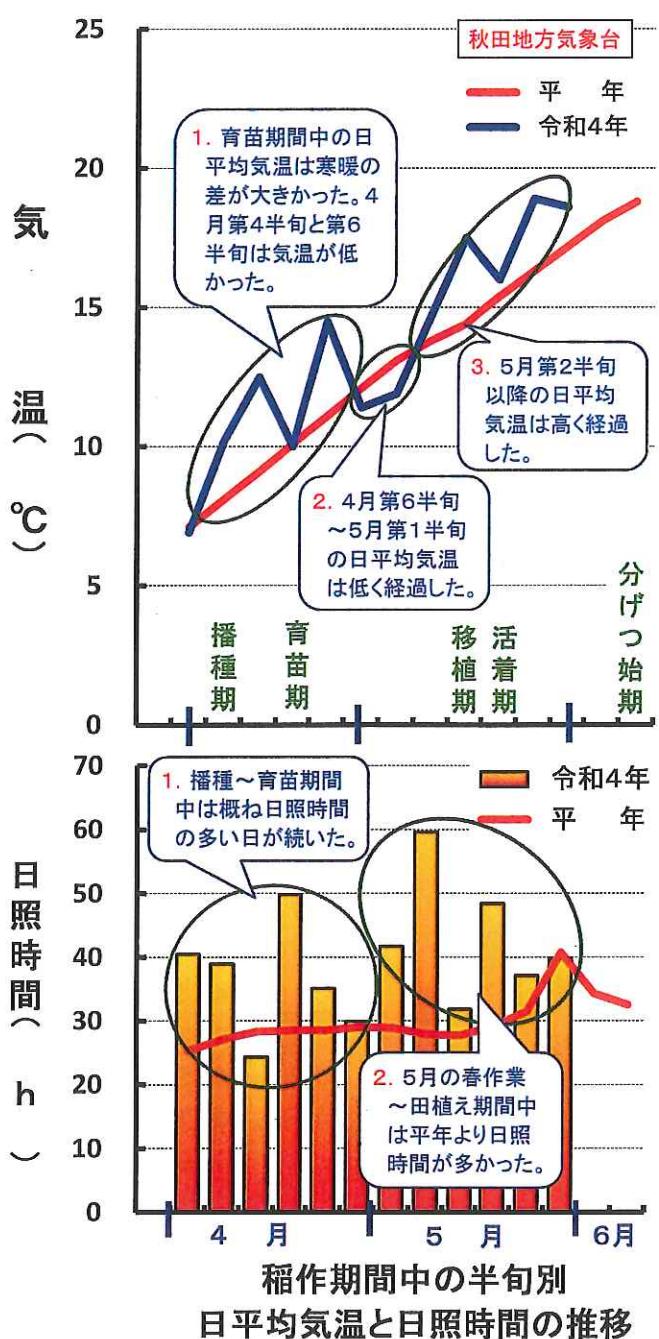
あきたからの米レター

田植えは平年並みに終了 適切な水管理で茎数(1次分けつの3号)の確保 雑草の発生早く、除草剤は適期を逃さずに散布！！ 飽水管理で高温による異常還元と表層剥離を防ぐ

4月・5月は、気圧の谷の影響により、周期的に寒気が入ったものの、気温はほぼ平年を上回った。

播種作業は、4月11日に始まり、4月30日に終え、いずれも平年並みであった。5月16日植えの苗の生育は、草丈が13.2cm(平年比103%)、葉数は3.8葉(平年差+0.4葉)、乾物重が2.7g(平年比126%)、充実度は2.05mg/cm(同122%)であった。5月25日植えの苗は、草丈15.1cm(同103%)、充実度1.95mg/cm(同124%)とともに良好であった。施肥・耕起は4月15日で平年より5日早まったが、終期はほぼ平年並みの5月12日に終えた。田植えは5月11日で平年より2日早まったが、終期は平年並み(5月30日)に終えた。5月は高温・多照に恵まれ、田植え作業も順調に終え、活着は良好である。当面の技術対策は、分けつ(1次分けつの3号)を確実に確保することが肝要である。

気象庁と仙台管区気象台は、6月の気温はやや高い日が続くとしている。地温の上昇により異常還元や藻類・表層剥離(泥力ナ)が発生するので、飽水管理を行ってメタンガスの発生抑制する水管理が重要となる。とくに、昨年倒伏したほ場やくず米重の多かったほ場では、稻ワラが多くなっており注意が必要である。



4月・5月は気温高く、日照時間多い

施肥・耕起作業、田植えはほぼ平年並みに終了

田植え以降は飽水管理で早期に茎数確保 飽水管理で高温による異常還元と表層剥離を防ぐ

4月・5月の気象概況(秋田県)

令和4年6月1日
秋田地方気象台

4月	上旬	この期間、高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間が多くなつたが、低気圧や気圧の谷の影響で雨が降つた日もあつた。
	中旬	この期間、高気圧に覆われて晴れた日が多かつたが、旬の中頃に前線や低気圧の影響で雨が降つた所もあつた。
	下旬	この期間、天気は周期的に変わり、26日から27日かけて前線を伴つた低気圧の影響により大雨となつた所もあつた。
5月	上旬	この期間、高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間が多くなつたが、低気圧や気圧の谷の影響で、雨が降つた日もあつた。
	中旬	この期間、高気圧に覆われて晴れや曇りの日が多かつた。 また、低気圧や気圧の谷の影響で雨が降つた日もあつたが、降水量は平年よりも少なかつた。
	下旬	この期間、天気は周期的に変わり晴れや曇りの日が多かつたが、低気圧や気圧の谷の影響で雨が降つた日もあつた。 27日から28日にかけては気圧の谷や湿つた空気の影響により大雨になつたところもあつた。

気象統計値(秋田市)

令和4年6月1日
秋田地方気象台

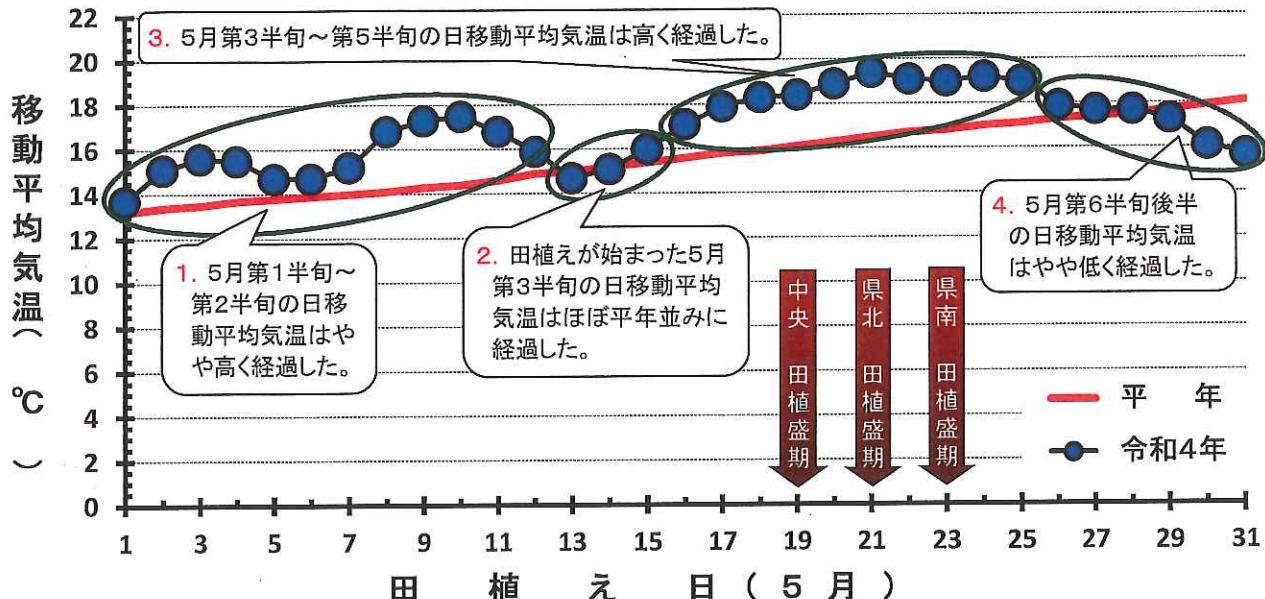
月	旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(h)		
		平均(℃)	平年差(℃)	階級区分	降水量(mm)	平年比(%)	階級区分	積算(h)	平年比(%)	階級区分
4月	上旬	8.6	+1.0	高い	4.0	12	かなり少ない	79.4	150	かなり多い
	中旬	11.2	+1.6	高い	13.0	34	少ない	74.1	128	多い
	下旬	12.9	+1.3	高い	64.0	160	多い	65.0	113	多い
	月	10.9	+1.3	高い	81.0	74	少ない	218.5	130	かなり多い
5月	上旬	13.3	-0.3	低い	33.5	75	平年並み	101.3	176	かなり多い
	中旬	16.7	+1.9	かなり高い	11.5	27	少ない	80.2	144	多い
	下旬	18.7	+1.8	高い	41.0	107	平年並み	76.9	107	平年並み
	月	16.4	+1.2	高い	86.0	69	少ない	258.4	140	かなり多い

農作業の進捗状況

各地域振興局農林部農業振興普及課調査(令和4年6月1日)

項目	地域	始期(5%)			盛期(50%)			終期(95%)		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差
播種	県北	4.13	4.13	0	4.19	4.18	1	4.27	4.26	1
	中央	4.10	4.11	-1	4.18	4.18	0	4.27	4.28	-1
	県南	4.18	4.20	-2	4.24	4.25	-1	4.30	4.30	0
	全県	4.11	4.11	0	4.21	4.22	-1	4.30	4.30	0
耕起	県北	4.21	4.22	-1	4.30	5.2	-2	5.6	5.10	-4
	中央	4.12	4.17	-5	4.23	4.29	-6	5.6	5.9	-3
	県南	4.29	4.30	-1	5.5	5.6	-1	5.12	5.14	-2
	全県	4.15	4.20	-5	5.1	5.3	-2	5.11	5.12	-1
田植	県北	5.13	5.15	-2	5.21	5.22	-1	5.28	5.28	0
	中央	5.8	5.11	-3	5.19	5.19	0	5.29	5.29	0
	県南	5.14	5.17	-3	5.23	5.24	-1	5.30	5.31	-1
	全県	5.11	5.13	-2	5.22	5.23	-1	5.30	5.30	0

5月は高温・多照で経過し田植えは平年並みに終了 好天に恵まれ活着順調、第6半旬後半は気温が低く葉色淡い



田植え日翌日から5日間の移動平均気温

注: 本年は秋田アメダスデータの平均気温を使用。平年値は準平年値を使用

せん根苗による発根調査結果

調査項目	年次		平年比 %・差※
	4年	平年	
平均気温(°C)	15.6	15.5	+0.1※
平均発根数(本); A	13.1	13.6	96
平均発根長(cm); B	6.6	5.3	125
最長根長(cm)	11.9	9.8	121
発根量(cm・本); A×B	86.1	73.0	118
発根乾物重(g); C	0.40	0.30	128
地上部乾物重(g); D	1.30	1.30	102
発根率(%); C/D×100	31.2	24.1	+7.1※

注1: 年平均値: 平成12年～令和3年の平均

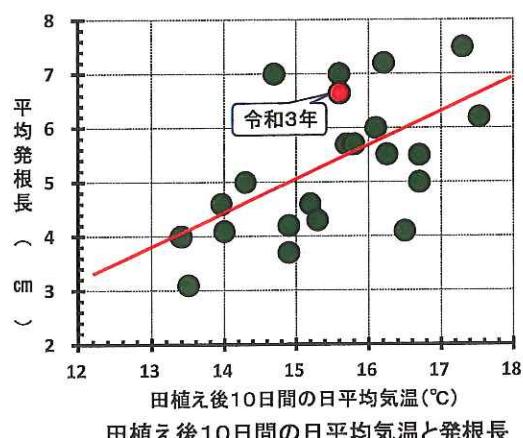
注2: 地上部乾物重は30個体の重さ

農業試験場気象感応試験における5月16日植えの、田植え後10日間の平均気温は15.6°C(平年差+0.1°C)であった。

せん根苗の発根調査では、平均発根数は13.1本(平年比96%)、平均発根長は6.6cm(同125%)で、発根数が平年よりやや少なく発根長は平年より長かった。

5月中旬は、移動平均気温が平年より高く経過したことから、発根量(根数×根長)は86.1cm・本、平年比118%であった。

5月第6半旬後半は日移動平均気温がやや低くなっているが、活着は順調に進むものと推察される。



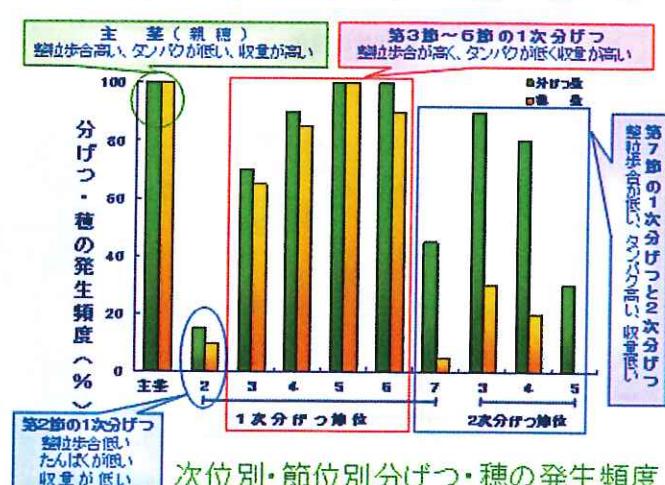
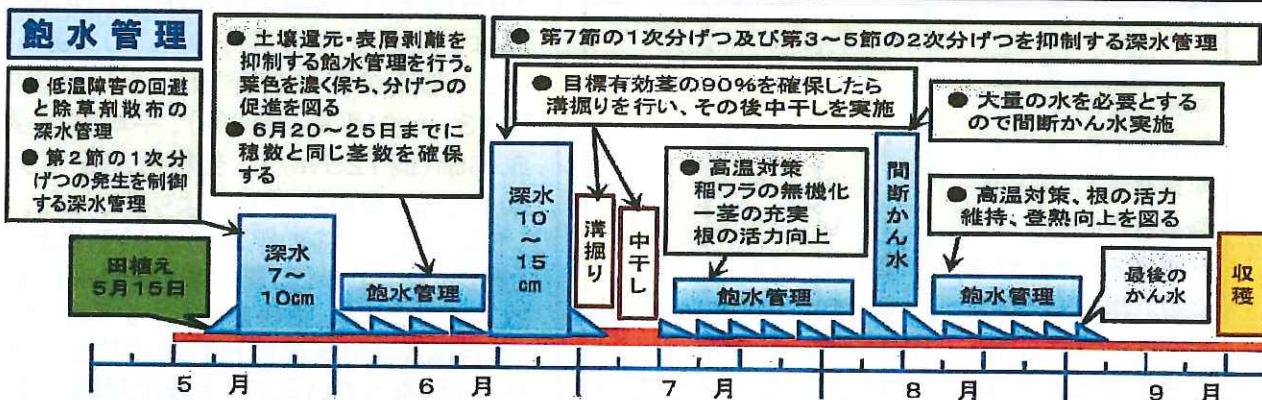
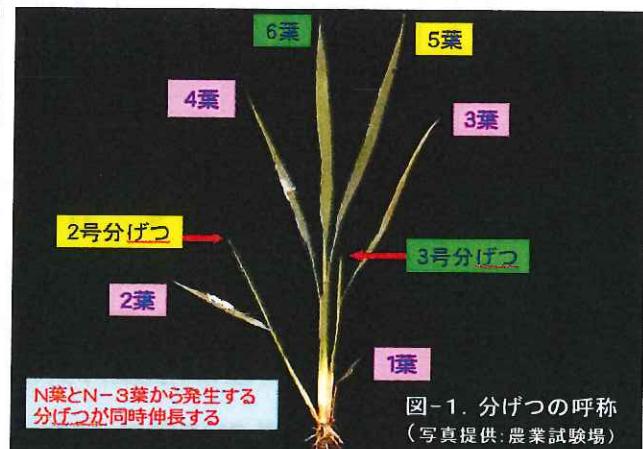
高品質・良食味米の生産

蓄積型水稻の作出 ➡ 有効形歩合高い稲づくり



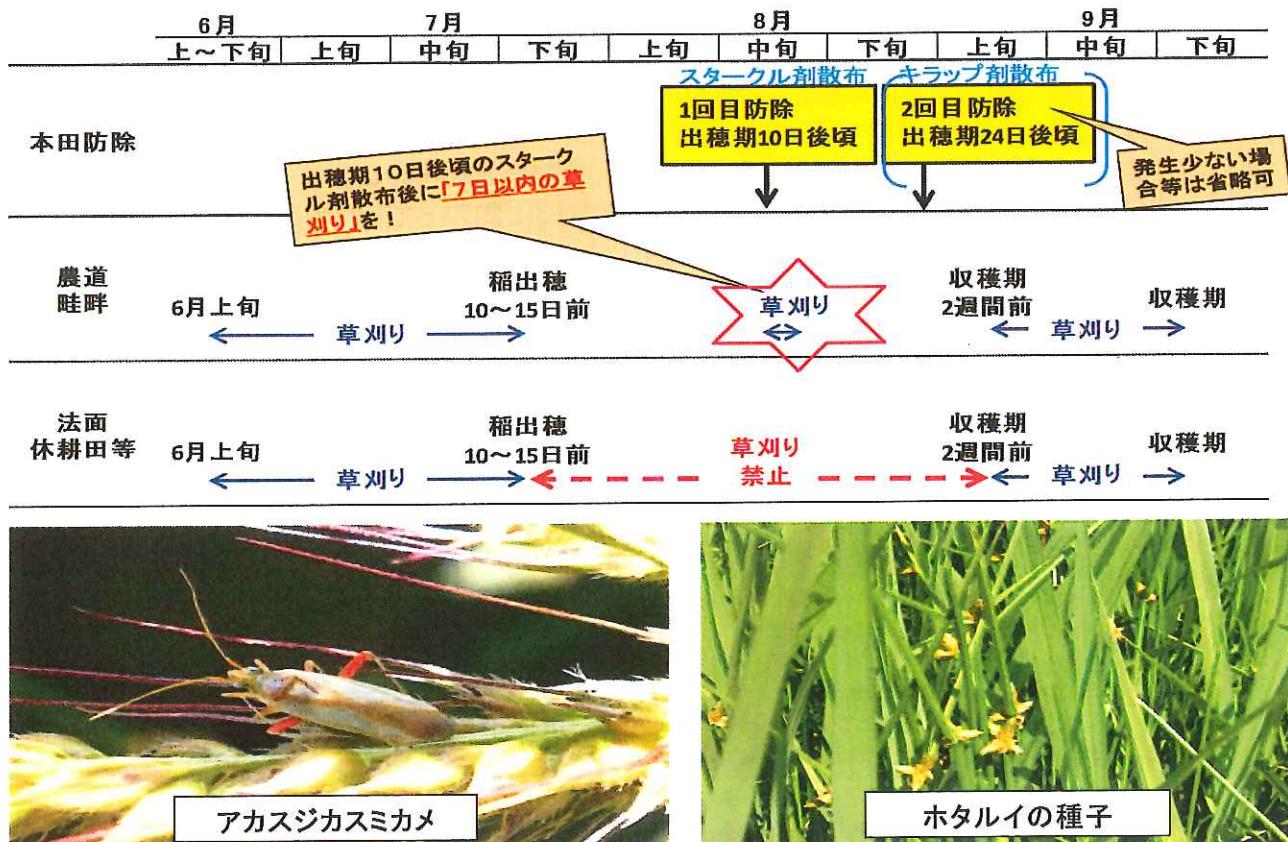
整粒歩合の高い高品質・良食味米の安定生産には、強勢分けつを主体に確保することが重要であり、そのためには、第3節1次分けつの発生を促進する必要があります。中苗「あきたこまち」は活着が良好であれば、第3節1次分けつは主稈の葉数が6~7葉期に発生しますので、この時期の分けつの発生を旺盛にする水管理を行うことが大切になります。

分けつの発生は、気温よりも水温の影響を強く受け、日平均水温が23~25°C、昼夜の水温較差が大きいほど旺盛になります。日中の気温が15°C未満の低温時には深水、15°C以上の場合は浅水にして、水温・地温の上昇に努め分けつの促進を図ります。



斑点米カメムシの発生が早く、発生量が多い 畦畔の草刈り徹底

斑点米カメムシ類の発生時期は早く、発生量がやや多いと予想される。水田除草剤を適切に使用し、ホタルイ類やノビエの発生を抑えるとともに、農道・畦畔や休耕田の除草を行ってください。 (令和4年5月10日:秋田県病害虫防除所)



6月上・中旬 の 主 要 作 業 別 注意事項

作業の種類	注意事項
補植用余り苗の処分	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 余り苗で発生したいもち病は、強力な伝染源となる。 ◎ 余り苗は直ちに土中へ埋め込んで処分する。
生育初期の水管理	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 浅水管理の徹底により分けつ(1次分けつの第3号)を確実に確保する。 ◎ かん水は早朝に行い、短時間で終えるようにする。
表層剥離・藻類等の防除	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えなどで対応する。 ◎ 多発した場合は中耕機による攪拌やACN剤等を散布する。
中・後期除草剤の適正使用	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ノビエが見られる場合は、クリンチャーレ剤、ヒエクリーン剤又はワンステージ剤のいずれかを散布する。 ◎ ノビエ以外の難防除雑草が見られた場合は、バサグラン粒剤・液剤などベンタゾンを含む中・後期剤で対応する。 ◎ ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、SM剤、クリンチャーバス、ワイドアタックSC剤等で対応する。
葉いもち予防粒剤の適期散布	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 側条施用剤や箱施用剤を使用していない場合は、オリゼメート粒剤を遅くとも6月15日までに10a当たり2kg散布する。
畦畔等雑草管理	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 斑点米カメムシ類の繁殖を抑える(密度の低下)ため、草刈り等の雑草管理は地域でまとめて行う。

6月～8月の気温は高い確率50%(仙台管区気象台)

6月は曇りや雨の日が多い 8月の東北日本海側は晴れの日が多い予想

仙台管区気象台は5月24日に水稻の生育に最も影響する東北地方の3ヶ月予報(6月～8月)を公表した。この期間、気温は「高い」確率がともに50%であると発表した。6月前半の天気は数日の周期で変わり、後半は曇りや雨の日が多い。7月は平年と同様に曇りや雨の日が多い。8月は日本海側では平年と同様に晴れの日が多いと発表した。

梅雨入りは平年並みと予想しており、梅雨前線に向かって南から湿った空気が流れ込みやすく、降水量は「平年並み」か「やや多い」と見込んでおり、日照不足が懸念されている。梅雨明けは高温障害による収量・品質の低下が懸念される一方、低温や寡照等の気象変動に対する栽培技術や肥培管理が大切であるとしている。

東北地方の日平均気温の確率

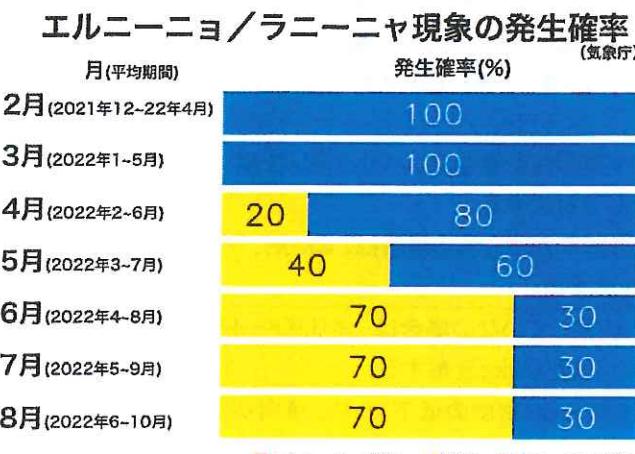
仙台管区気象台

3ヶ月予報			5月24日発表	1ヶ月予報 (5月28日～6月27日まで)			5月26日発表
3ヶ月	20	30	50	1週目	20	50	30
6月	20	40	40	2週目	30	50	20
7月	20	40	40	3～4週	20	40	40
8月	20	40	40	凡例	低い	平年並み	高い

ラニーニャ現象は春の間に終息、今夏は暑い？！

◆エルニーニョ、「夏は平常状態」の予測に変更無し(気象庁)

気象庁は、エルニーニョ監視速報(3月実況と4月～10月の見通し)を発表した。ラニーニャ現象が続いているとみられ、今後春の間にラニーニャ現象が終息し、平常の状態になる可能性もある(40%)が、ラニーニャ現象が続く可能性の方がより高い(60%)。その後、夏の平常の状態になる可能性が高い(70%)と予測している。このことから夏の平均気温は、北・東・西日本とも「高い」としている。



暖候期予報(6～8月)

ウェザーニュース



あきたecoらいすの拡大に向けた取り組み

あきたecoらいす (農薬50%以上削減)		減農薬栽培米	一般栽培米
有機米	特別栽培米	J.A. 秋田 こだわり米	基準 スタンダード

「あきたecoらいす」とは使用農薬成分回数を50%以上削減した、環境にやさしい秋田米づくりの総称

J.A.グループ秋田は、秋田県、生産組織等と一体となり、「あきたecoらいすプロジェクト」を立ち上げ、環境保全に取り組んだ新たな「秋田米ブランド」を構築します。

京急あきたフェア2022 「あきたecoらいす」応援プロジェクト



JA全農あきたは、京急電鉄株式会社と共に秋田県産農産物を首都圏に売り込む企画として「京急あきたフェア」の田植えイベントを行っており、今年で14回目を迎える。本年は京急グループ社員と秋田県立大曲農業高等学校の生徒を迎え、5月26日に大仙市高梨地区の農事組合法人北川目ファームで田植えを行った。新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、2年続けて断念したが、JA秋田おばこ及び同東部営農センターの指導員とJA全農あきた職員等が一緒にになって、久しぶりの田植えで歓声が上がった。京急社員は北川目ファームが所有する29aのほ場で「あきたこまち」の手植えと田植機で移植を行った。秋には新型コロナウイルスが終息し、稲刈りイベントが出来るように願いを込めて丁寧に田植えを行った。



気象庁「平年値」更新

気温・日照時間・降水量の30年平均

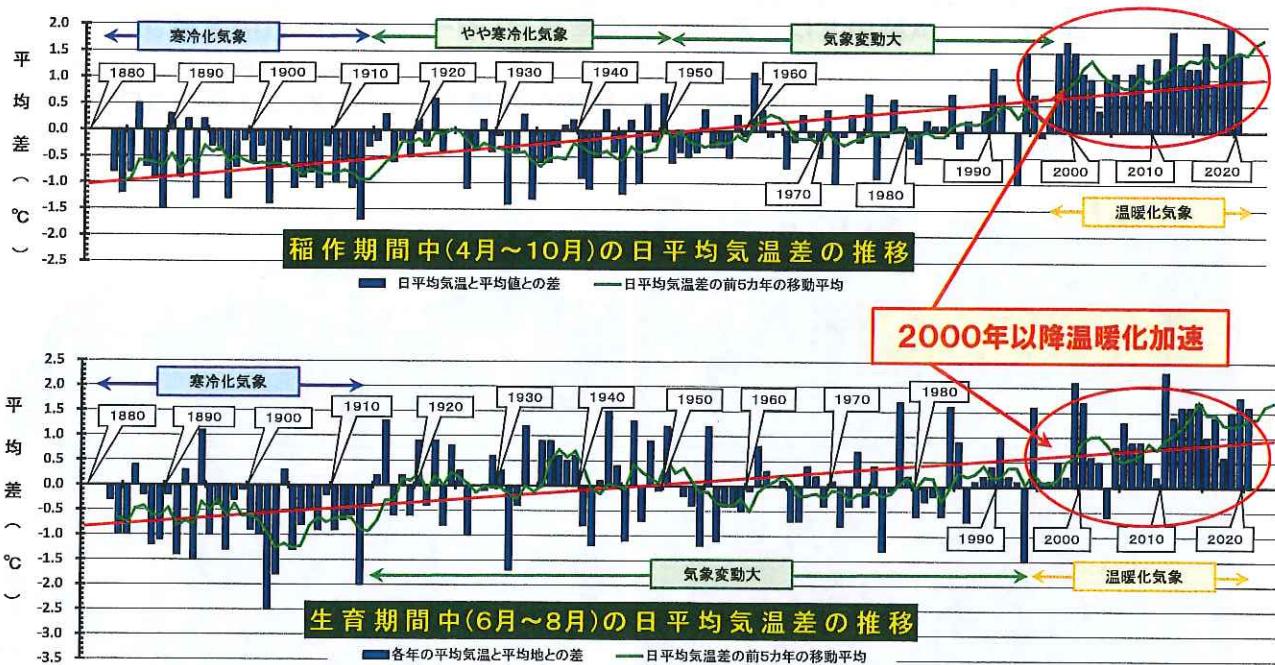
気象庁は昨年5月19日、気温が高い・低い、少雨・多雨などを判断する目安である平年値を更新し、1981～2010年の30年平均から1991～2020年の平均に切り換えた。

気象庁によると、新平均値は年平均気温が全国的に0.1～0.5°Cほど上がる。降水量は、春の西日本や夏の東日本太平洋側で5%ほど減るが、夏の西日本や秋と冬の太平洋側に位置する多くの地点で10%ほど増えるとした。

秋田市の137年間の日平均気温の推移



稲作期間中の日平均気温の推移

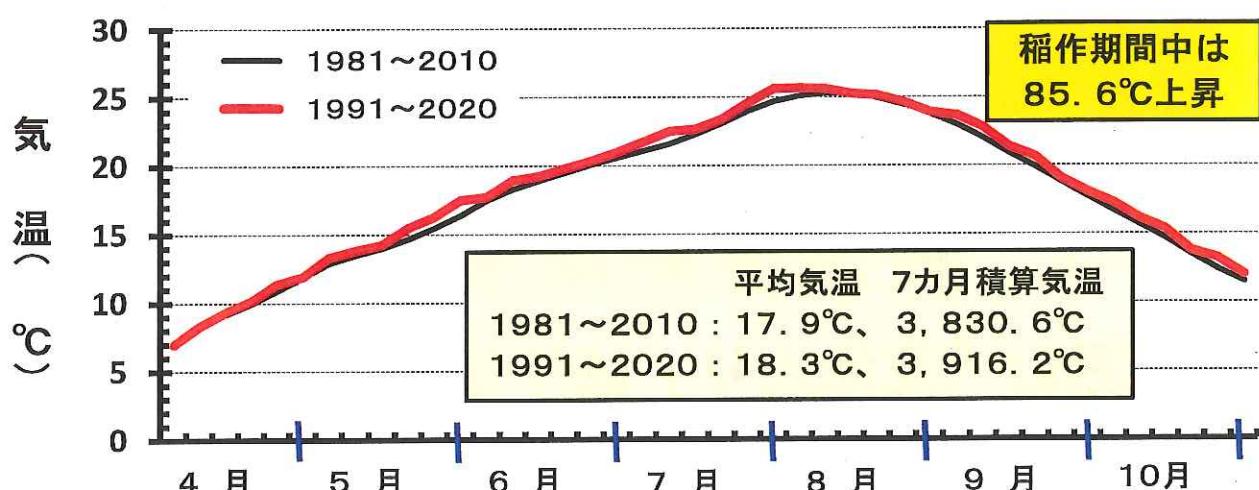


昨年5月30日より気温・降水量等の平年値更新

前回より年間日平均気温0.4℃上昇

稻作期間中4月～10月までの積算日平均気温約86℃上昇

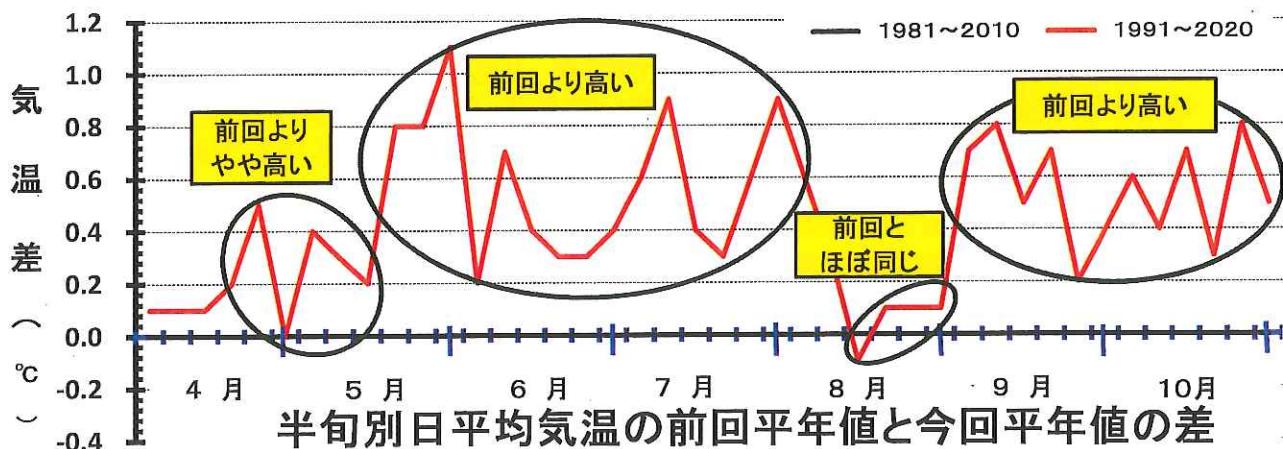
これまで気象の平年値は1981～2010年の30年間の平均であった。5月30日からは1991～2020年の30年間の平均を新しい平年値として切り換えた。秋田地方気象台が観測した半旬別の日平均気温は、4月～10月までの稻作期間中では日平均気温で0.4℃ほど上がり、7カ月間の積算日平均気温では85.6℃上昇する。



稻作期間中の半旬別日平均気温の平年値比較

栄養成長期間と登熟中・後期の高温に注意！！

稻作期間中の半旬別日平均気温の平年値を前回と今回で比較すると、前回より高い時期は5月中旬～8月上旬までと9月以降である。4月～5月上旬はやや高く、8月中・下旬はほぼ同じである。田植えから出穂までは栄養成長期間にあたり、気温が高くなると生育が早まり、乾物重が小さいまま出穂を迎える低収の要因となる。出穂を遅らせるには、6月中旬の有効茎決定期前後の深水管理や冷たい水の掛け流しが有効である。9月以降の高温は登熟中・後期にあたり、登熟が早まり白未熟粒の発生や充実度不足、刈り遅れによる胴割れ粒の発生に注意が必要である。



3月は気温高く、日照時間多い

3月の気象統計値（秋田市）

令和4年4月1日
秋田地方気象台

月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(h)		
	平均(℃)	平年差(℃)	階級区分	降水量(mm)	平年比(%)	階級区分	積算(h)	平年比(%)	階級区分
3月	9.4	+1.6	高い	27.0	84	平年並み	69.9	125	かなり多い

我が家家の花木は一斉開花



変動気象は想定内

仙台管区気象台

秋田の「梅雨入り」は平年並み～やや遅い？

今冬(12月～2月)は、昨年に引き続き寒気が入り込み豪雪となった。今年は県中央部と県南部では記録的な積雪となり水稻や野菜ハウス、果樹等に甚大な被害を与えた。3月に入ると一転して気温が高く日照時間の多い日が続いたことから、秋田市の桜の開花は平年より5日早まり4月12日となった。こうした気象変動は毎年のように繰り返され、気象庁は今夏も異常高温が続くとしている。

4月は寒気が周期的に入り寒暖の差が大きかったものの、4月の日平均気温は平年比+1.6°C、日照時間は平年比125%でかなり多く、苗の生育は順調に生育した。こうした天候は5月に入ってからも続き、田植えの始期は2日早まったが、終期は平年並みに終えた。5月25日以降に田植えを行った場合は、同第6半旬の後半から気温の日較差が小さく、低温と曇天にみまわれ、活着不良となり初期生育は緩慢となった。

気象庁が発表した6・7・8月の3カ月予報では、ラニーニャ現象が終息し、今夏はエルニーニョによる気温の高い確率が50%であると予想している。西日本の「梅雨入り」が未だ発表されないが、秋田県を含む東北北部の日本海側の「梅雨入り」は平年並み～やや遅いとしているが、梅雨前線に向かって南から湿った空気が流れ込みやすく、降水量は平年並みかやや多いと見込んでおり、梅雨の期間が長くなり日照不足が懸念されている。

「イネづくり」の肥培管理も自ずと決まってくるが、どんな気象になろうとも、気象変動に対応した栽培技術を駆使して、整粒歩合の高い高品質・良食味米の安定生産を心掛ける必要がある。今年は自然の動きにも目を配りながら稲づくりを進めたいものである。もうじき「梅雨入り」、水害も気になり被害に遭わないように「備えあれば憂いなし」、イネの生育調節と栽培管理には十分注意を払う必要がある。

こだま

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558
秋田市八橋南2-10-16
URL:<https://www.zennoh.or.jp/ak/>

次回の発行は6月15日頃

資料の使用に当たって
は米穀部の許可を得る

JA全農あきた米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷295-53
TEL:018-845-8500
FAX:018-880-1572